

Ⅲ 参 考 資 料

Ⅲ－1 川内原子力発電所位置図

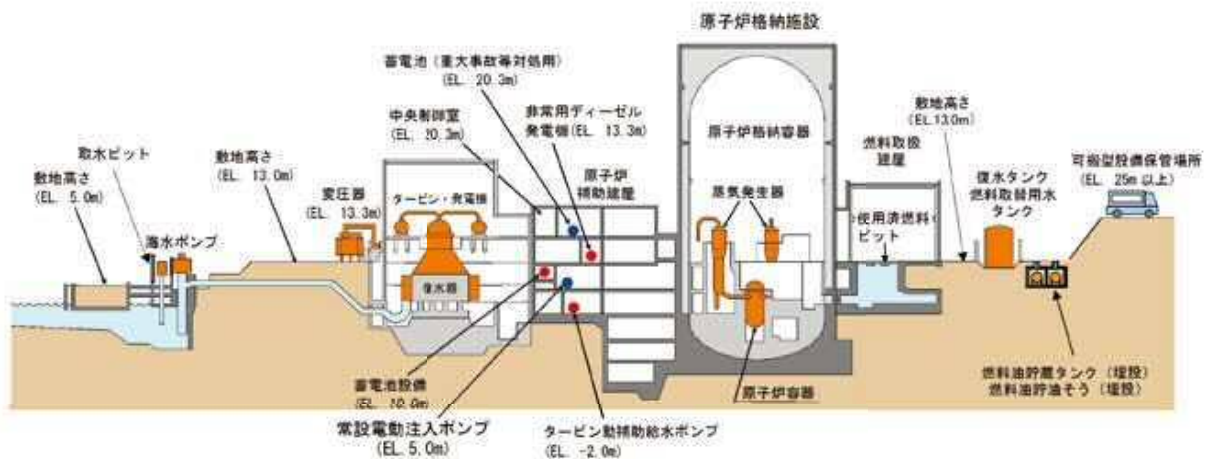


<発電所全体配置図>



※県道43号線は敷地外

<発電所断面図>



Ⅲ－２ 川内原子力発電所の概要

川内原子力発電所は、1号機が昭和59年に全国で27番目、2号機が昭和60年に全国で32番目の商業用原子炉として営業運転を開始している。

項 目		ユニット	
		1 号 機	2 号 機
所在地		薩摩川内市久見崎町字片平山1765番地3	
敷地面積		約145万m ² （埋立面積約10万m ² を含む）	
電気出力		89万kW	89万kW
原子炉	型式	軽水減速・軽水冷却・加圧水型〔PWR〕	
	熱出力	266万kW	266万kW
燃料	種別	低濃縮二酸化ウラン（約4～5%）	
	装荷量	約74トン （燃料集合体157体）	約74トン （燃料集合体157体）
冷却海水量		約64m ³ /s	約64m ³ /s
主要経緯	川内市議会・誘致決議	昭和39年12月15日	—
	建設計画発表	昭和45年 4月21日	昭和52年 3月29日
	電源開発調整審議会	昭和51年 3月12日 （第68回）	昭和53年 7月14日 （第75回）
	原子炉設置許可	昭和52年12月17日	昭和55年12月22日
	着工（基礎掘削開始）	昭和54年 1月24日	昭和56年 5月 7日
	安全協定調印	昭和57年 6月12日	
	初臨界	昭和58年 8月25日	昭和60年 3月18日
	初送電	昭和58年 9月16日	昭和60年 4月 5日
営業運転開始	昭和59年 7月 4日	昭和60年11月28日	
建設費		約2,800億円	約2,300億円

Ⅲ－３ 平成２７年度原子力防災訓練に関する知事コメント（平成 27 年 12 月 20 日）

本日の原子力防災訓練については、寒い中ではありましたが、国や薩摩川内市を始め、関係機関や地元住民の方々の御協力のもと、無事終了することができました。

本日の訓練は、川内原子力発電所 1，2 号機の再稼働後、初めての訓練であり、午前中は P A Z 内の、午後からは U P Z 内の避難訓練を実施しました。

特に、P A Z 内では、屋内退避施設の活用やヘリによる搬送、U P Z 内では、原子力防災・避難施設等調整システムによる医療機関等の受入先の調整のほか、30 km 圏外に避難退域時検査場所・救護所を設置し、車両用ゲート型モニタによる汚染検査、ホールボディカウンタ等搭載車による内部被ばく検査を実施するなど、これまでにない新しい取り組みも数多く盛り込んだ訓練を行いました。

本日の訓練で得られた反省点や気付いた点などを十分活用し、今後の県地域防災計画の見直しや次回の原子力防災訓練に反映させて、原子力防災対策の更なる充実・強化に積極的に取り組んでまいりたいと考えています。

Ⅲ－４ 定例知事記者会見 抜粋（平成 28 年 1 月 4 日）

【記者】

先月行われた防災訓練のご感想と、仕事始め式の中でもいろんな反省点というお言葉もありましたが、知事が考える反省点、今後活かしていきたいというものがあれば教えていただければ幸いです。

【伊藤知事】

12月の20日に、毎年のごとであります原子力防災訓練を実施させていただきました。今年は、再稼働後初めての防災訓練でもあり、また原子力規制委員会等々の厳しい審査を受けて再稼働した原子力発電所の防災訓練でもありましたので、私どもも結構長い時間準備し、そしてまたいろんな仕組みを考えながら防災訓練を実施できたのではないかと考えております。

だいたい一般的には、だいたい順調に動いたのではないかと思います。参加者の方々は「本当に、本番でこんなにうまくいくのだろうか」という意見もありましたし、また若干の情報連絡等々がうまくいかなかった、そういう場面もございましたので、一つひとつをもう一度再検討したうえで、どういう体制を講じることができればいいのか。何と言っても住民の皆さん方に安心していただく、安心感を与えるということが重要かと思っておりますので、継続していろんな取組をしなければいけないと思っております。『原子力だより』や防災訓練、その他いろんなことをやりながら、周辺の住民の方々に安心していただけるような、そういう環境作りをしたいと思っております。